

1975年夏期舎舎感想文集



キャンプの思い出

ボーイスカウト東京ヤ4団カブ隊

キャンプの感想

小林雄平

カフスワウトの今年のキャンプは、三泊く四日ひ
おくたま湖のそばの丹波ヒュッテに行った。

教会に午前十時に集まってバスで行った。

昼ごろ着いた。丹波ヒュッテのけしきは、山にかこ
まれて湖も近くにあつて空気がよくてとてもよい所だ
と思つた。とまる所はバンガローになつていて、十二
からいならんでいました。へやを求めた。

ビーバー、ジャカー、スワローズ、ライオンズ、リーダー、
父兄とべつべつのバンガローにはいった。

ぼくは、ビーバーの組なので、こしお君、くどう君
二人、かしわお君、中村君、ぼく、デンチーフの土屋
君の七人とビーバーのへやにはいった。

ぼくたちのへやはとてもせまいので夜は一枚ふとん
にふたりでぬた。土屋君だけは一人がぬた。

へやのかざりつけは、戸に石をつけたり、へやの

まわりに輪をつけたりベルをつけたり、戸のところ
紙に組のにお絵をデシマザーが書いてくれたけれど
だいたい同じかおなのでだれがだれかあまりわから
なかつた。

一日目は、ビーバーがとてもひざりつけがいいと言
われた。ぼくは、うれしかった。

夜は花火をしたりほしを見たりした。東京とちがっ
て、ほしが、こんなにたくさんあるかと思うくらい見
えた。天の川も見えた。

次の日の昼はハイキングにいった。ぼくは、歩くの
がとてもきらいなので山のぼりほにが手だ。だからつ
らかつた。

おやつのおいしさはつめたくておいしかった。

ビーバーだけの水あそびは楽しかった。岩場なので
ダムを作つてあそんだ。

きもだめしは、しばさき君とぼくでいった。行く前
はこわくなんかないと思つたけれど草むらの中に入っ

たら何か出てきそうまで二ゆくなってきた。とちゆうで
道にまよってなかなか前に進めなくなってしまう、ぼ
くたちのあとからきた、新井君たちとぶつかってしま
った。四人で目的地にいった。みんなは、トウフヤコ
ンニヤクをぶつけられたらしいが、ぼくたちはぶつけ
られなかった。

ぼくは、いつも朝一番ぐらゐに目がさめてしまう。
三日目は、近所の、やきやう場で、やきやうをやっ
た。ぼくたちの組はかった。

この日のキャンプファイヤーは、おもしろかった。
リーダーの、出しものがほかほかしいけれどゆかい
だった。

ぼくたちの組は、よくけんかもしたけれど、すぐな
かなおりをする。

今年のキャンプは、とても楽しかった。

カブスカウトのキャンプ。

工藤紫麻

いよいよカブスカウトのキャンプの日です。

バスにのって、一時間半ぐらゐで、きゆうけいじや
うにつきました。

きゆうけいじやうの近くにわっこいひこうきがあ
りました。

一休みしてからまた、一時間半ぐらゐで、丹波山に
つきました。

ついでから、へやをきめました。

ぼくたちのへやは、七号室でした。

そのへやは千じよう半でした。

それからかぶりつけをしました。

きれいにかぶったのでぼくたちの組がゆうし
うしました。

つぎに川にはいりました。

川のがれが早かったのでながされそうになってしまいました。

つぎの日にハイキングに行きました。

ハイキングの場所は、6kmと7kmぐらいはなれた山に行きました。

すごく遠かったのでつかれてしまいました。

夜キモダメシをしました。

最初に、おぼけのお話話を聞きました。

ぼくは、こわかったので少し聞きませんでした。

それからキモダメシをしました。ぼくはすこしこわかった。

つぎの日野球をしました。野球のとき、最初はぼくたちのチームがかっこいいけれど、さいごにきよくてんされました。

夜、キャンポファイヤールをしました。歌を歌った

り、げきをやりました。

さいごの日に、かざりつけをとるときに、せつかく

きれいにかぶったのに、とってしまふのは、もったいないと思った。

さいゆうしゅう組しようのときぼくららの組がなれなかったので、くやしかった。

初めてのキャンポ

柏木昌夫

ぼくは、七月二十九日から、八月一日までの、丹波キャンポに行きました。

朝、早く、起きたら、おかあさんの方が早く起きておべんとうを作ってくれました。

夕方、教会まで行ったら、ほとんどの人が来ていました。

そして集合して、ふがみ先生が、おいのりして、バスに、のりました。

バスの中で、ぼくは、一組の組長の小林君とすわりました。

そして、途中で、休み、またバスに、乗ったら、ひ
こうきが見えて、みんな、「大きいなあ」とか、「
かっこいいな」とか、言っていて、おうつと行って、や
つと、つきました。

そして、なうほうとしたら、小林君が、役場の前で
ほいてしまいました。

みんな大さわぎして、やっと、なうんを丹波ヒュッ
テというところの、バンガローの所の近くの所に、に
もつをおいて、おべんとうを出して、開村しきがあつ
て、それが終って、おべんとうを食べて、こんどは、
バンガローに入つて、部屋のかざりつけをしました。

かざりつけは、わっかのを、かべにはりつけたり、
くつばこの所に、やねを作ったり、紙で、「くつばこ」と
はったりして、やつたら、おふろの時間になったの
で、入りに行きました。

それで入つて出てからちよつと時間がたつて、夕食
の時間になって食べました。またちよつとたつて、サ

ークルファイヤーやって、そのあと花火をしました。
それが終つて、ほそみがいて、点検をしまつて、ぬま
た。

つきの日になって、昼をうとしま、お昼かあつて、
食べて、朝礼があつて、きのう一日の生活で、夜更起
ほんとか、そういうのがあつて、そういうのをとつた
ほんとか、人は、ぼくがいるビーバーはん、ジャガー
はん、ジャガーはんの小坂君でした。

そして、ハイキングがあつて、ぼくたちのビーバー
はんは、二番に出发したけれど、なめとうという所で
休んだから、四番めの所においこされて、四番めに、
もくてき、ちにつきました。

それでおべんとうを食べて、また帰りまいた。

こんどは、ひるねをしまつて、おやつたべて、おふろに
入つて、夕食を、食べて、ヒュッテのおじさんがまも
りだめしをやる前に、三つこわいはほしをしてくれま
した。

いよいよ、ぼくたちが行きます。

一番めは、星川君と小林君です。

出発して、十分おきに、つぎの組がでます。

一番めが出て十分たつてぼくたちがでて行きます。

ぼくたちの組は、すぐう君と、ぼくで出発しました。

とちゆうまむ行くと、一番めの組が、まっさいま

た。それでいっしよになつて三番の組をまつてました。

またから大人でとんとん行つて、やっと神社まで行

きました。

みんな名前を書いて、またもつて、とちゆうま

高橋リーダーが、「しずかに」とか「このこと、まだ

行つてない人には、はなしちや、だめだよ」とか言いま

した。また歩きはじめて、帰つたら、たい長が、「部

屋の中に入ってなさい」と言つて入つてました。

それでみんなおわつて、ぼくたちもほをみかいて、

真検をしてねました。

朝おきて、体をうして、朝食で、朝食はいっぱい

たべようと思つたけれど、あんまり食べられなかつた
です。

それで朝礼があつて、きのうみたいに、しよがあ
りました。それから野球のはなしがありました。

それで野球をした行つて、ぼくは十番に打ちます。

さいしよの打せきは、三しんで、二打せきは、さ

いしよの球から、大きいヒットを打ちました。

それでも9番まで、きやくてんがちこれでした。

それで帰つて昼食を食べて、少し休んで、おせつを

食べて、おやつのでりかたが、おもしろかったです。

それでお風呂に入つて、夕食を食べて、ギャンオフ

アイヤーをしました。

それが終つて、ほをみかいて、真検をしてねました。

明日かえるのだと思つて、はやく帰りたいなりました。

た。

いよいよ帰る日になりました。

体をうして、朝食を食べて、ちよつとたつて、ヤ

いしゆうてんけんをして、倉倉をたべて、バスにのつてぼくはすぐぬました。おつとぬめて、東京の方にきたらおきました。そしてやつとつきました。

それで、よいゆきじゆうこじんは、おぼろでした。それだいたい長のはながあつて、かいさんして、帰りました。

と中で、タクシーにのつて、家についたら、一番自分の家が、いいと思いました。

でもぼくは、四日間のうち、つらかったことは、ハイキングです。暑い日に、いっぱい歩いたからです。うれしかったことは、おげきしようをもらったことです。

カフキャンプにいつて

小林元文

ボーイスカウトのキャンプが近かったです。
ある日ぼくはおなかがいたくなりました。

病院に行くといすてきじゆつ室につれていかれました。なんたかすぐやられそうにげだしたくなりました。きじゆつをするとキャンプに行けません。荷物とせつかくこしらえたのに残念だと思いました。

きじゆつのかつこうのお医者さんが来てきて、これなら切りなくもだいじょうぶでしょうといったのでぼくは安心した。三日入院していたくなくなったのでキャンプは行くことにした。

重いリュックをしょつて朝早く家を出ました。教会にはリーダーたちがもうきていまみんなねむそうだった。バスで三時間走るとキャンプ場についた。1団が来ていて今日帰るところだった。

いよいよ第一日目が始まりバンカローは始めてなのでおもしろい形の家だなとおもった。小さは町みたいでとてもたのしいでした。ジャガー班は家のかぶりをさつそくはじめた。だんだんかぶつてくるうちに自分の家みたいにかんじた。

きもだめしは小宮リーターが一奮めもしろかった。
夜静かになるとどこかで雨がふっているようなきが
した。それは川の流れる音だった。それを聞きながら
ねてしまった。

どこかで雷の音がしたのでなにかと思つたら、「起
床」と外でさけんだのでみんなおきました。

川遊びはとも水がつかめたくもきもちがよかった。

すごい急な流れでぼくはあ、という間にころんで流
された。ぼくはひっしで岩にへばりついた。

みんなびたむをつくらたり流れとほんたいにあまく
とともつかれた。

ハイキングのときにあつくであつくでクラクラだつ
たけど山の水はつたたくて、のむと急にあせがなくな
った。とももおいしくても今ものみたい位です。

一人でハイキングにいったとしたら、きつとまいご
に陥るだろうし、とやむいやになつてしまつたろうと
思うと、ボーイスカウトにいてよかつたなろと思つた。

まだまだこのキャンプ場にいたいなろと思ひながら
バスにのつてかえつた。

キャンプのこと

藤井優介

キャンプにいつてたのしかつたので、またいきたい
です。

一日めは、さんかしようのネツカテーフをもらった
り、かざりつけをしたり、かわであそんだりした。

ぼくは、かわあそびが、いちばんおもしろかつた。

二日めは、ハイキングにいつたり、こじんしようや
くみしようをもちつたり、きもだめしをした。

きもだめしは、こわくなかつた。

三日めは、さかなをとつてやいてたべたり、シヤガ
イモをたべたり、おいかをとたべたり、キャンプファイ
ヤーをした。

さかなやシヤガイモはおいしかつた。

四日めは、やきゆうをした。ぼくは三しんぼっかり
だった。それからひるすぎにかえった。

いちばんおもしろかったことは、キャンプファイヤ
ーで、つきは、ハイキングで、つきは、かわであそん
だことだ。

やきゆうは、ぼくたちのチームがあった。

かえるとき、あめをたべたりした。

かえつてから、さいゆうしゆうしゆうをジヤガーは
ん、ぼくたちをほんがもらった。

うれしかった。

小さく人が、さいゆうしゆうしゆうをもち
つた。

ぼくたちのくみの人むうれしかった。

中にはいていたのは、ボイスカウトのにんぎ
ょうだった。

シャカ、ほんのみな、ゆうしゆうしゆうや、さ
いやうしゆうしゆうしょうをもちつて、くみきは、ス

カウトハウスにしまっておいた。

かえつてから、リュックの中のものを出して、しま
つて、リュックをしまつて、やつとキャンプがおわつ
たな、と思った。

おわり

丹波山

小坂秀一

七月二十九日は、カブたいに入つて、はじめのキ
ャンプです。

山梨県の丹波についてから、さつとく、ぼくたちの
バンがローに入つて、かざりつけを、しました。あま
りじょうずに出来なかつたと思ひました。三十日は、
河原へ、ハイキングへ行きました。

はじめは、元気に歩いていましたが、さいごは、あ
まりちようしがよくありませんでした。せんぶでもキ
ロ歩きました。

その夜は、キモダメシをしました。ヒュッテのおい

さんからこゆい話をきいてから、じんいやへ大奮者と
出かけました。一番おもくろかつたのは、とうふを、
役けられたことでした。三日目のおやつは、すすく、
じやかいもでした。ぼくは、じやがいもをニミたづま
した。その夜キャンブクアイヤーがありました。ぼく
たちのげきは、あまり、どつかがわるかったと思ひ
ました。びーバーとライオニスでした。歌ますこしお
ほえました。

さいこの日は、へやのがぶりをとったり、へやをと
うじしました。兵庫のキャンブがたのしみです。

カブスカウトのキャンブ

小塩浩之

七月二十九日カブスカウトのキャンブで、奥多摩湖
の近くの丹波ヒュッテへ行きました。ヒュッテへつい
たら、荷物をおろして、整列をしました。どのバンが
ローがおしえこもらって荷物を持って、ぼくたちのバ

ンガローにはいりました。

つきは組集会です。ぼくたちも、バニカローのがぶり
つけをしました。ゴクのぶくちをもらって、ひげには
りました。ドラト石をぶちさけて、人がはいってまた
ら、わかるようになった。ベルも作りました。

組集会が終わって、おひるにはいってから自由時間
なので、またかぶりつけをしました。

夕食はとこもおいしかったです。こはんのおかわり
もたくさんしました。

夜、サークルファイヤーのとき花火をしました。
とこもあしりあつたです。

桌雑談してからおきました。

(三日目)朝六時に起きて洗面と食検をしてから、体
どうもして頭髪を洗いました。

朝礼をしたから、ハイキングのしたくをしました。

いそぐとーてから、ハイキングへ行きました。
行きは、とてもつかれました。

そとで着食をたべました。

合べおわつてからルームをこまりました。ほくたちの組が一卷でした。

かえりには行きよりつかれませんでした。

おふろにはいつそ夕食をたべました。合べおわつてから、洗面をやる。たくもして、きもたぬきをやりたいます。

ほくとくんは尾崎君です。

ほくたちの荷がまてとらゆうまで行つたら小林君と中村君に会いました。四人であつとサインをたじつて行きました。じんとヤがある道は四人をまじりこめかけたです。とらゆうとふふとかけくれました。

小林君と尾崎君とほくは、ころがつてしまいました。中村君は後にいたので、かかりませんでした。そす

こすまきにくとじんどヤがありました。ほいめに杉田さんがワッしとおどかすました。あんまりおもしろませんでした。つぎは、小宮さんかいました。

小宮さんは下をむいていってしまいました。

名前をかくところには、刈草さんがいました。

ほくたちは、すぐ聞官さんだとわかりました。

かえりには杉田さんがワッしとおどかすました。

小宮さんみたいは、見つかつたらじつとこいたといいと思います。かえり、とうふをかいた茶さんと龍

さんが、銀玉をつほうで、ほくとらをつらました。

帰つたら、おまこにきかえてねました。

(三日目)朝七時におきて、洗面と長換のじゆんびをして、夜をうして朝食を食へました。

つぎに長換をしてから、朝礼をしました。

野球をしました。ほくたちははじめは、かっていたんをすけおととらゆうと、やく英されて、まけてしまいました。

ヒエツツへ帰つておふろにはいつてから自由時間のかかりつけをしました。

のれんをつけたり、ハイキングをひつたおほじきで、ビーパーの形を作つてかべにさげました。あと杉田さんと高橋さんの

顔を書いていろいろなことを書いてかかまりました。

夕食を食べてキャンプファイヤーをやりました。

キャンプファイヤーのとき、ぼくたちはリーダーのまねとか中村君がないてしまったことをげきにしめました。キャンプファイヤーがおわって洗面と点検をしました。かかまりました。

(四日目)朝六時半に起きて洗面と点検しました。

体をうすくみから、朝食です。いつもよりおいしかったです。つぎは、かぶりつけをとったり整理をしました。もう一かいさいこの点検をしました。つぎは、

自由時間とキャッチボールをしました。

つぎは、昼食をいちはんさいのほのどともみいしめたです。

こういうキャンプをもっとやりたいと思います。



キャンプ。

中村秀哉

三ばく四目で、たはヒュッテでキャンプをしました。行きのバスの中で一度よいまいたが、ついた時にはもう気分がよくなりました。ついた日は、川が遊んで終りました。川の流しが早く、うまく泳げませんでした。

あくる日、さんちようまで歩いて行きました。と中石だんの所をおりく、玉川の所をたいた木を二本組でいる橋をわたりました。その時ぼくは、わたれるかなと思いましたが、大きな石につかまりながら進むのは、とてもたいへんでした。また石だんを上る時、ぼくは、わいや(ワイヤー)につかまったまんま、足が石からすべってたいへんでした。夜行きのため、組は、ぼくと、月のわの小樽君といっしょでした。と中、しらというさごうがあったから、まっすぐ行くのかと思ったら、リーダーが曲るんだよとおしえてくれたので、

曲ってます。こいさ行って行った。とうひをなげられたり
しました。び・やと。じん社があつて、そこに名前と
書いてから帰つてきました。

そのつぎの日ソフトボール大会で、さいごのまやく
てんでまけてしまいました。夜のキャンプファイヤー
で、ほくたらは、リーダーのまねをしたりしました。
とてまたのーひつた三ほく四日でした。

まちにまつたキャンプ。

工藤聖此系

いよいよ行方になったキャンピングの日がやってきました。
バスに乗って、丹波山つてもんを所ひな、ほくたら
のへちは広いかな。と想像してました。教会から、丹波
ゆまのの時は、だいたい三時間半とほくはバスの中
で聞いた。ついたら想像よりもせまひつたのをびっくり
して、とてまににク人も、ねれると思えません。
ほくたらへのやはう号室をクノうキをす。ついでか

ら家の中と外をかぶりつけをします。

つきに川にはいった。川の水はすく冷たい。それ
に流れも遅いから、ほくはいらん深い所まで泳ぎれ
てしまった。

おやつには赤く、くおいさうなものを食べた。

夜には花火大会をした。一人三本ずつと、ほかに
うら上の花火や、ドラゴン花火や、ほかいろいろ花
火をした。まじうは、とてま来り日だった。

つぎの日の朝早く朝礼をした。

朝礼のときほくたらの、ヒーバー組からえうはれた
小塩さんと、しまが、こっさけいさうのとま出て、二
人を壇を上げた。

つぎにハイキングをした。

歩いたのは、6kmと7kmとほくはまいた。

びくすそれのまうなところに清流が流れていた。

それを飲んだらおいしかった。東京にもこんなにお
いしくて、つぎに水があつたらいいと思つた。

後になつたらきもだめしをした。最初にこわい話をした。こわい話をされたときは、こわかった。

きもだめしのとときにとうふをぶつけられた。ゆる前
にみりめたら、ジーパンのところとジャンパーのこ
ろがしろうくなつていた。ことしめきもだめしはとて
もこわかった。

フキの日、朝早く朝礼をした。朝礼のときジャガー
組からえらばれた小林君と小坂君が、こっきけいよう
のとき出てきた。ふもなにかがつつかかつていたので、
中止にして隊きにいれいもした。

遊園会のとときテニスボールで、野球をした。したか
ランドにくる前に、石の角にあたって、足の肉をほつ
てしまった。それからすこしたつと、リーターの杉田
さんがきて、てあてをしこもらった。

夜には、キャンパファイヤをした。けきや歌を歌
ったり、いろいろほことをした。きようはとても楽し
い日だった。

最後の日にかがりつけをとった。いるものはカブスカ
ウトのへやにもって帰って、いらぬものは捨てた。
せつかく作つたのに、いらぬものを捨ててしまふの
は、もったいないなと思つた。帰りにきねん子真をと
った。それならバスの中でおやつをたべた。

カブ最後のキャンプ(初日)

雨宮邦男

七月二十九日、今日、いよいよカブ舎営。朝早く、

重い荷物を背負い、教会へ向つた。

まだ眠気があつたけれど、朝の道を歩いていたら、
既気も自然と覚めてしまった。坂を登り、聖南坂教会
に着いた。もう何人かの子は遊んでいた。ぼくは荷物
をおろし、休んでいた。

ピーピッピッピッピッ! 十分ぐらい経つて、全集
が、かかった。

「まだ来なないなあ」とリーター達が話合つてい

ようだ……。

二人三人遅れて来た。そして言いわけをして、列に入った。

最後に、便所に行くやついおえかしとリーターがい
うく、ほとんど行き、そこからバスに乗った。

母が窓の外で、手をふいていた。

バスが出発した。

となりは「新井真々」だった。

「新井真々」と話したり、みえたりしていたら、
テニマが、歌を歌えまくれたり、杉田えんが歌ったり
していた。

回りの景色がせしから家に戻り始めた。

そして同じようなことをしているうちに、奥多摩湖
が、見えてきた。

みんなが「アワノジヤイアントロボだ」と言いだ
した……。

トンネルもあった。土屋君が、トンネルの中で狂っ

たりして面白かった。

そのうちやつとヒュンテに着いた。

南村式が始まり、月の輪は、みんなだれていて、用
村式が終わった。リーターにおこられてしまった。

今日は、うらなことはないと思っただ。

キャンプの感想文

新井真人

こんどのキャンプはおもしろかったと思う。

けいあー、野球大会もやったからだ。

でもキャンプファイヤーの時、あまりがらんとやら

なかつたのがさむい。

ぼくはなせかひんけつせ、ぜんそくになった。この

ころぜんぜんでいなかっただのに。

それに、去年のキャンプも、おと年のキャンプも

どでもないのに。ぼくは、カフスカウトのさいごのキャ

ンプに、こうなると思っくいながらだ。

今年の、ついせきはいくみたいのは、ほんとなくほくは、つまらないな、と思った。去年、おと年のぶつらのついせきはいくがよかった。

ぼくは、今年のキャニオンで一番おもしろかったのは野球大会だ。ぼくたちの組は、三こうで、ぼくが、ファーストになったんだ。ファーストは、えらあするとたいへんだからいやだといったんだけどなっていました。ぼくはみんなさんだったけど、さいごで打った。その次におもしろかったのは、きもだめーだ。

ぼくはたんこぶを、作ってしまったのでさいごになつてしまったけど、おもしろかった。ぼくたちの前がしばき君と小村君で、やくしよの前で、まっくいるのがはれーしました。こまさいごにまたあったからうかった。すぎたさんにおどかされて四人ともびりりしたら、四人がびりりしてしけんかん、おもしろい。そまたそのびりりさんに写真をとることとらわれてしまった。

ぼくたちの組は、しよをももらえなかった。

でも個人でのしよをほくはやつともらった。でもひとつだけだった。いらぼんさんもつていたのが名前にはわすれたけどその子です。新しくはいつてきたのにすこいな、と思った。その子は、れいなんおかにつくと、すこいしよがもらえ、大きなおりの中がいいものがはいてるのをもらった。

楽しかったキャニオンだった。

キャニオンの感想

星川慶太

今年のキャニオンは、今まであったキャニオンの中では一番つまらなかった。一番たのしくやまが良かったキャニオンは、昨年の糸巻隊長のおしでのキャニオンだった。それにくらべ、今年の新隊長と糸巻隊長のキャニオンは、すごくおもしろい。たのしいという感じがせんせんなかった。たのしかったと思ったのは、川をおよい

「前ぐらいてあとは、なにもしなかつた。

月の輪とてくんれんになつたなと思つたのは、ハ
イキングのときだけだつた。

池原隊長がいっしょうけんめいやつてゐる気持ちは、
わかるが、今までの中で一番つまらなかつた。

川であそんだこと

加藤隆弘

カラスカウトのキャンブル第一日の川であそんだ。

川のがれはとて早い。

だから新井君と尾崎君で寺をつないで川をわたつ
た。とちゆうでころびそうになつた。でもほくがころ
べはみんながころぶと思つたからこらえた。

それから岩の上をみたり、木くて長いほうがあつた。

ほくはそのときあのほうつえにしたらどうかと思ひ

尾崎君に「ちよつとまつて」といつて岩にあがつた
か、つるつるすべる。

そのとき尾崎君がきてほくにはおかせると言つたので

ほくは「つるつるすべるからきをつくれ」といつた。

そして尾崎君はそのほうをとつた。

ほくはやつたと思つた。

それでほくは、そのほうのあかかりのかりになつた。

それからちよつとまつた。

それからまたあそんだ。

それから水たかわからなけいひとそのほうをなく

してしまつた。ちよつとおしいかんじがした。それが

ちよつとすべつた。

ちよつとすべつたの、一日だつた。

丹波 ヒュッテスの夏期 キャンプ

小林正己

教舎を出発してほく達をのせたバスが丹波ヒュッテについた。開村式がおこなわれこれから三日四日のキャンプが始まる。

そして、あくる朝、ハイキングに行った。

そこで、おべんとうやゲームをした。

すこーあそんで、ヒュッテに帰ってきた。

その夜、きまじめをした。

これは、二人が行き、日の輪と新入とだった。

そして十時ごろおわった。そして、さいごの夜、七

時ごろから九時ごろまでキャンプファイヤーをやった。

それは各組かうだしの(かき、歌)をやる。ほくたち

ち(ライオンズ)は、ちよつとしっぱいになりました

と二つが二一三ある。それは、けきのときほくが、「

こころをゆるーし」というところまであったるんです

けど、そのあとほくが、「命だけはあつすけをー」と

いうときゆるーしてまったことです。それがちよつとおわった。

あくる朝、朝食をたべて、昼食をたべて、もうヒュッテのおじさんやおぼさんとわかれます。それがよせがまをかいて開村式になりました。それがおわってバスに乗りました。

バスの中では、歌やゲームをやると思ったらみんなぬえているから、ほくもぬえてしまいました。そして、さやうけいじまにきく、トイレにいって、バスに乗り、中津高遠まで行って首都高遠まで行って、新宿までて渋谷にきて教舎についた。そこでほくは、こう思いました。「あー、よかつたなー、やつとこれか三日四日のキャンプがおわつてしと思ひ、そうしたら全集がわかって、高橋さんが、「隊長のお話」といった。隊長が出たとき、こうスカウトにいった。「家にひえたらもうキャンプがおわつたと思つたらまちがえだ。リズアップをおいて、あーたのさういをして、はじめてキ

キャンプがおわったんだ。」と語りまくりました。それ
で高橋さんが「それではかいさん」といってスカウ
トは帰った。

楽—かったキャンプ。

野村陽一

ぼくは、二度目の、夏のキャンプに行った。

場所は、山梨県奥州市野村だ。

バスでいったが、道がわるく気もち悪くなってきた。

やっとついでに荷物整理を—開村式。

夜にサークルファイヤーをした。

二日目はハイキングをした。

ぼくたちの組が一ばん早かった。

水がつかめたかったのでダムを作ってお茶をみや
した。

高橋リーダーが「この木でターザンがでまるとい
ってびるまがいたらズボンに水がかかっちゃったの

びおかしかった。

消燈の用意がすんできもだめしをした。

その夜にこわくてあまりねられなかった。

三日目は朝会できのうのきもだめしで男うしかった

でしようももらった。

やさめうをしてお昼を食べてちよつとたったらおざ

さくんのお父さんがひかえにきまくれた。

ぼくたちは学校のニコニコ園のけんこうしんだん

があるから早くかえるのだ。

かえるとき思った「いくときたまたもくじょうが

ちやんとできまよかった」と。

もくじょうとは、しやくじまのこまひいということ

だ。

このことできみやテンマサーにはめられた。

ほんとうに楽しかった。



カフスカウトのキャンプに参加して

大森 暁朗

ぼくは、夏休みの七月二十九日から八月一日まで、

カフスカウトのキャンプで山梨県の丹波山村へ行った。

東京からバスで四時間ぐらいのところにだ。

バスが着いたとき、東京より空気がいいのに気がついた。景色もよく気持ちがいいところだった。

ぼくにちのちとまったところは丹波ビュッテとい
うバンガローのようなところだ。ぼくは、バンガロー
と聞いた時は、とてもうれしかった。それは、一つ一
つ家がちがうからだ。ぼくたちは、八畳のせ、まじ
まじの広さだった。

ここには、多摩川清流(丹波)が流れている。そ
の川でダムを作ったりした。その時は、とても楽しか
った。川でとったにじますと、小さいいやがいを、
アルミ缶につつんで石で作ったかまに入れて焼い
て食べた。その味は、最高でとてもいいことだった。

こういうことが今年のキャンプは、バンガローでの
生活でも楽しく、いろいろおぼえられた。

尾崎 裕幸

カフスカウト最後の月の輪キャンプだった。思い出
の多いキャンプだった。最後だといって、あまつたれ
たスカウトは一人もいなかった。でもぼくは最後の日
までいられたのがとてもがんばった。

楽しかったのは川遊び、野球大会など。特にスリ
ルのあったのはきもめしだった。中にはおみあさん
がたがいてくれた所もある。

とまった所はバンガローだ。ぼくは三つ思った。

もう一年や二年カフスカウトにいまするっていいと
思う。リーダーはやさしいがいたずらをするの大変こ
わい。でもみんなたい好きだ。ぼくが辞め
づくりになるなあと思ったのはあのロキロハイキング
だ。帰り道、水がめなく、ないたやつがいたが、み

んだって水がのみたい気持ちがあるんじゃないか
と思つた。

この三ばく四日でカブのキャンプが終つてしまふの
がいやになつた。とてもたのしいキャンプだつた。

舎營キヤンプ。

柴崎信宏

今日は、まことにまつたキャンプの日だつた。

朝六時に、父におこしてもらつた。教会にいくまで
は、自家用車で父におくってもらつた。教会についた
のは、七時まえでほとんどの人はきていはかつた。教
会を八時ごろで、宿舎についたのが、十二時ごろだ
つた。

宿舎についたら、まだ百二十四圍のカブが昼食を食
べていた。ついたら組ごとで、日かげをさがして昼食
に付た。ほくは、バスによつたせい、べん当を
まり食べなかつた。昼食があらつて、ほくたちは八号

室になつた。二このキャンプ場は、すぐそばに川が流
れていて、かわらがすいとほにあらつて、いいところだ
つた。その日の三時ごろから川を遊んだ。川の水は冷
たくて、とても楽しかつた。すこし遊んで、おやつに
ももを食べた。そのももは、冷たくとてもおいしいか
つた。

次の日は、朝会でいろいろお話をもらった人がいた
ので、ほくももらいたいなと思つた。

それと今日は、ハイキンタから朝食をたくさん食
べた。ほくたちは二番だつた。今年はずっと年とらがつ
て地図をかいたので、ほくが地図をかやくようになった。
ほくたちの組には杉田リーダーがついてきてくれた。

はじめのうちはほりきつていたけれど、あとめほう
になつてのどがかわいて、くたがれた。と申し
加いがおしえてくれた川のそばの、すずしいところ
で、一休みした。目的地について、すず、すいという水
の音だ。昼食は、べんとうのみにすりを食べた。帰り

何事かと思つた。ぼくは、もうたおれようになつた。でも宿舎までびんしてびん歩つた。宿舎について、ひまわりの時間からひまわりをした。そしておやつすいのが、おいしかった。

夜きもたぬしをした。今までは二人一組になつた。ぼくは小森君とだつた。きもたぬしの前には、こわい話をしたい。前の人の話によると、二んにやくやろ、とうふやら、ぶつけられるというから、よけいこわくなつた。まつている間に、だんだん怖むくなくなつてしまつた。いく間、うしろの人たちといつしよになつて、合計四人で行つた。ぼくたちは、二んにやくもとうふもぶつけられかけた。そして夜は思いだめた。

次の日は、午前中仕事だつた。宿舎からすぐ近くのクレンジをやつた。ぼくの最初の勤務は、センター前のミヨリ村だつたからうしろだつた。宿舎はカレীদেরだつた。ぼくはカレীদেরだつた。のこしてしまつた。ぼくはカレীদেরだつた。みんなより先に帰ることにした。ぼくはカレীদেরだつた。みんなより先に帰ることにした。

になつていた。ぼくとあと三人いた。帰る時は、尾崎君のおとうさんがむかへにきてくれた。帰りは行きとちがって電車はかうよかつた。家についたのが五時ごろむくたくたになつてしまつた。家についたらむくたくただつた。むくたくたになつてしまつた。家についたらむくたくただつた。

樂一がった小川のダム作り

須倉紀之

山梨県丹波山キヤンプ場にきて、何日目の昼飯を終えて、みんな小川で遊ぶことになつた。ハ木くんとぼくと大森くんで、ダムを作つた。とこも樂しむつた。大きい石をみんなぼくがはこび、ハ木くんが重ねていつた。大森くんは、小石を浅い方を一人で作つていつた。ぼくとハ木くんを深い方をつくつた。深いほうは、流れがつよいので、小石をおくと2メートルくらい流れまわります。

しばらくして、ふきあがつた。

かみがある所とない所では大抵がよい。かみでせきと
めてある方のうら側は、浅い方の川かたいになつてい
る。

ほくたろは、これは大森こうだと思つた。

もつと深い方にやると三人は迷ひた。

深い方は、浅い方にくらべるとすこくむずかしい。

大森くんとほくは、大きい石をほこんでくる。八木

くんは、そのほこんできた石を重ねる。この作業を、

続けようと思つたが、望がなかつた。ああ、おしいな、

もうすこし時間があればな、と思つた。

カブギヤンプ

テンチー

大内理人

七月二十九日から八月一日まで、カブのギヤンプで

奥多摩山に行つた。

一日目は、教会からバスで、丹波ヒュッヂに向つた。

湖があり、山があり、川がありで、とてもかんきよう

のよい所だ。

岡村式を、部屋割を、夕食を食べ、夜、花火

をやつた。星のかがやく夜空に、たくさんうら上げら

れた。

二日目は、ハイキングに行つた。

だいが歩いたようだが、六キロくらいだそうだ。

道路を歩いていたので、あまりおもしろくなかつた。

目的地は、川が流れていて、すずしい所だつた。

川の水がためたのにおもしろい。

夜、きもだめしをした。ほくは歩かなく、手つだい

をしていた。おもしろいので、歩いてみたのだ。

三日目は、午前中、グラウンドで、野球をやつた。

広々としていたので、気持ちよかった。もう少い

やりたかつた。

午後は、かわらで、ジャガイモのホイ乳焼きをやつ

た。カマドで火をつけ、ジャガイモをほくりんだ。

さすがにうまかつた。

四日月は、早く帰るので、六時前に起き、荷をひき、
朝食を食った。七時十分には、バスにのりた。思った
より早く、十一時ごろ、家についた。

後で、ボリーのキャンプがあるの、あまりおかし
いことはやうなつた。

今年のキャンプを考えたことは、リリータリとスカウ
トが、まゝとまゝで行動が、まゝなので、業、い、キヤン
プに、た、

一、旅、三、長、の、旅、想

三、四、日、の、舟、旅、を、キヤン、プ、に、成、功、た、つ、た、

大、陸、に、乗、り、上、り、オ、ー、シ、ア、後、は、オ、シ、ア、の、ス、カ、ウ、ト、が

キヤン、プ、の、内、に、お、い、て、ま、つ、た、

キヤン、プ、の、舟、旅、は、舟、の、内、に、お、い、て、ま、つ、た、

キヤン、プ、の、舟、旅、は、舟、の、内、に、お、い、て、ま、つ、た、

キヤン、プ、の、舟、旅、は、舟、の、内、に、お、い、て、ま、つ、た、

そして川での水浴びには、と、余、り、活、動、に、な、つ、た、

全、體、地、の、理、想、と、し、て、行、全、く、前、あ、つ、た、

一、緒、に、御、同、行、し、ま、す、り、全、體、同、お、世、話、と、下、

つ、た、四、年、の、三、人、の、お、父、さん、お、母、さん、の、お、い、

り、一、人、一、人、の、お、心、に、一、つ、つ、と、訓、練、に、お、い、て、ま、つ、た、

と、本、当、に、お、い、た、

スカウト達も全期間、大、き、な、旅、を、お、い、た、

無、事、に、お、い、た、と、う、か、ま、つ、た、大、き、な、旅、を、お、い、た、

ス、カ、ウ、ト、の、時、日、の、旅、は、お、い、た、

と、お、い、た、お、い、た、お、い、た、お、い、た、

と、お、い、た、お、い、た、お、い、た、お、い、た、

と、お、い、た、お、い、た、お、い、た、お、い、た、

と、お、い、た、お、い、た、お、い、た、お、い、た、

と、お、い、た、お、い、た、お、い、た、お、い、た、

と、お、い、た、お、い、た、お、い、た、お、い、た、

と、お、い、た、お、い、た、お、い、た、お、い、た、

12

一、凡在... 均有...

二、凡在... 均有...

三

4国キャンプのあしあと

		<合 営 地>	<隊長>
第1回	1954. 8	埼玉県秩父	志水隊長
2	1955. 7	五日市	杉原隊長
3	1956. 7	山中野営地	"
4	1957	箱根小涌谷	"
5	1958. 7	日光清滝	"
6	1959. 7	箱根強羅	"
7	1960. 8/10-13	富士見高原	"
8	1961. 7/21-24	秩父コースホテル	"
9	1962. 7/21-24	伊豆コースホテル	"
10	1963. 7/21-24	西湖コースホテル	"
11	1964. 8/12-15	志賀高原琵琶湖ホテル	"
12	1965. 7/21-24	山梨県清里美しの森	"
13	1966. 7/21-24	伊豆コースホテル	万石隊長
14	1967. 7/21-24	埼玉県秩父コースホテル	大島隊長
15	1968. 7/20-24	西多摩郡羽村	"
16	1969. 7/21-24	御殿場栗山荘	"
17	1970. 7/21-24	甲府コースホテル	片岡隊長
18	1971.	西湖コースホテル	
19	1972.	秩父コースホテル	松田隊長
20	1973.	山梨県道志村	糸井隊長
21	1974.	山梨県忍野村	"
22	1975. 7/29-8/1	山梨県丹波山村	池沢隊長

Be contented with you have got and make the best of it.

---Baden-Powell